

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>理念はできているが意味、内容が漠然としているので皆が同じ解釈ができるようにする。</p>	○	分かりやすく全職員が同じ方向に向かって、その人を支えられるサービス理念をつくり上げていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>毎朝、申し送り後に皆で理念を読んでいるが、現実に向かっての取り組みは具体的にはできていない。</p>	○	理念を実現するために、小さな目標をたてて全員でひとつの目標をもって取り組み、最終的に理念に沿う実践に取り組みたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>理念を掲示しているが、そのことに触れた話や取り組みはできていない。</p>	○	入居日や家族会などを利用して理解していただけるようにしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>散歩で近所の方に会えば会話したり、運営推進会議では自治会の方に参加していただいているが、日常的な付き合いまではできていない。</p>	○	今していることの他に何をすればよいか分からない。年に1回でも何かイベントを行い、近所の方の参加を呼びかけるのもいいのではないかと考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>小学校の運動会やルルド祭など、お誘いがあり参加している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の支援が精一杯で、その他の取り組みは実施していない。	○	過去には実習生の受け入れをしていたが、現在はしていない。施設間の実習生の受け入れはしている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義は理解しており、評価に対して可能なことから改善している。	○	改善点に対して職員全体で話し合い、取り組み方を決めた方が良い。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は施設側の報告で終わる状況で、相手の意見は出ていない。	○	意見を言ってもらえるような、会議の持ち方を考えたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所としては連携、関係づくりを行っている。ただ、地域密着型のサービスとしてはどうかは分からない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な場合、対応できているが職員の殆どが知らない。	○	勉強の機会を設け、全員が理解できるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に近いような行為や、虐待につながりかねないようなことがあれば、その都度職員間で注意し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとって説明している。疑問点は後から出てくるものなので、その都度説明し対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1～2回介護相談員が訪問し、苦情を聞いている。また、職員も時々さり気なくうかがっている。可能な事は反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	何かあればその日のうちに報告できている。連絡の大切さを全職員に理解してもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1～2回介護相談員が来られる。また、面会時に時々何か問題はないか聞き、なるべく早く反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しする機会は設けていないが、その都度意見を言っている。意見に対して速やかな返答は難しい。	○	意見に対してできるだけ早く反映させるようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	一日に必要な人数は確保できているが、欠勤時に交代者がいない場合の調整は難しく、負担も大きい。	○	突発的な時の調整について普段から考えておくようにしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	業務、レベル優先の異動で家族、利用者からのクレームは多い。	○	利用者や家族の気持ちを、もう少し考えてから配置を決めるよう考えたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各研修には参加しているが、回数は少なく受講人数も限られているため不十分である。</p>	<p>○</p> <p>施設内での職員のレベルアップを図るためにも研修などで、広い視野と知識を持つ機会を多くつくりたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修の場での情報は聞くが、施設同士の交流はない。</p>	<p>○</p> <p>そのような機会を設けるにはどうしたよいか、情報の提供を知り対応したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>人間関係の調和を保つために、異動を行い少し軽減はされている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>向上心、意識を高めるために、どのようなことができるのか、また、必要なかを検討していきたい。</p>	<p>○</p> <p>施設内での勉強会の機会をつくったり、指導、教育係をつくって、プロとしての意識の向上を図りたい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>信頼関係を大切にしているスタッフと、そうでないスタッフの差が大きい。折に触れて信頼関係の大切さについて話し合っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者の役割であると自然に思い込んでいる。実際、管理者と限られたスタッフが行っており、全員はできていない。</p>	<p>○</p> <p>各スタッフが大切さに気づくように、実際の関わり方をきちんと指示していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題と、どのように対応するかは、皆に周知し実施している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から本人のことを色々聴き、その上で接している。スタッフも慎重に様子をうかがい、意見交換して接している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に支え合うことについて、説明したり、理解を促しているが、個々への実践がなかなか難しい。	○	業務上そこまで気を配る余裕が難しい。一緒に過ごす時間の確保の工夫をしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	随時、連絡を取り合い意志の確認を行っている。機会としては少なく、家族と密接な関係が築けているとはいえない。	○	たくさん面会に来られるような雰囲気や工夫をして、距離を縮めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	相手からの情報はあっても、こちらから深く聞くことはできない。また、ご家庭の内のことには干渉していない。	○	デリケートな部分であるが、何をどうしたらよいか考えたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会は快くお受けしている。こちら側からの支援は行っていない。	○	利用者から要望があれば、家族と協力し関係の維持に努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	円満に関わり合えるように、さり気なくきっかけをつくっている。どうしても孤立しがちな方に対してはスタッフが関わりを深めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同じ事業所内であれば、会いに行ったりしている。退居後も気軽によっていただけるよう声かけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望には可能な限り、実現できるようにしている。また、言葉にできなくても、様子を見て望んでいることを理解するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にしっかり家族に聴いている。生活の中でさりげなく本人からも聴き出している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全体の状態は把握しようという姿勢はあるが、残存能力は見落とす場合が多い。	○	思い込みは一切やめて、利用者の本当の状態を見つける力をつけたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には、希望などを聞き反映させている。また、関係者から助言があれば、しっかりと取り入れている。今後は利用者本人の意見や声をもっと聞いて取り入れたいと思っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化、期間終了時の見直しはしている。期間内で実施できない項目があれば、直ぐに変更できるように注意をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	最近、ようやく生活に関する内容が少しずつ充実してきた。今までは医療中心の内容だった。	○	毎日、あまり変化のない内容なので、小さな気づきも記入できるようにしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性については、今のところ医療面に関してのみで、往診や医療処置を受けながらの生活の継続を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの小学校と定期的交流を行っているが、その他のボランティアは、最近交流がない。	○	警察との協力は少ないため、今後働きかけていこうと思う。 (利用者がいなくなった時の連携など)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理・美容の定期的な訪問サービスのみであるができています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席してもらい意見を参考にしているが、現在家族の要望はない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、または、状況に応じて、家族の希望に沿った医療機関で受診できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医療機関で、医師から指示や助言をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間、相談、対応をしてくれている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	必要な情報交換はできており、施設内での対応が可能な場合は早めに退院されている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にある程度はお話している。状態変化に合わせて、その都度医師を含め話し合い、方針を決めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合は、ほとんど入院となっている。施設におられる間は医療機関の協力を得て、いつでも対応できるようになっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリーを作成し、詳しい情報交換を行っているが、本人に合っていないことが多く先入観を持ってしまうことがある。	○	グループホームに入居する前に、実際に本人に会う機会をもっとつくりたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時々慣れや気の緩みがあることがあるが、その都度スタッフ同士で注意し合っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中での小さなことは、本人に意志を確認できない方にも働きかけをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、トイレなどの時は本人のペースで行っている。全体的な流れは業務優先となってしまう。	○ 業務の見直しをして時間に余裕をつくっていききたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や日常的な身だしなみは、整わせていただいているが、個人的にこだわりの強い人には支援はできていない。	○ 理・美容に関してこだわりのある方は、家族の協力を得て外出して行えるようにしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、栄養士が決めていて好みは反映されていない。準備、片付けは特定の利用者の方が自分の役割として行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	規則で物は限られているが、要望があればご家族に持ってきていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンに合わせての対応をしている。日中はなるべく早めにトイレに誘導し、オムツを汚さないような支援に心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人数、業務の都合によりこちらが決めた曜日、時間に合わせてもらっている状況である。	○	業務の見直しをした上で、検討してみたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の様子や要望をみて、随時個々に合った援助をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の意欲に合わせて、利用者ができることをお願いしている。	○	張り合いや喜びになる機会をもっと増やし、気晴らしにつながるようにしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方はいない。ご家族より失くしても良いという条件で、いくらか持たれている方はいる。その他の方については施設の金庫で管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよくて時間に余裕があれば散歩をして、日曜には交代で買い物に出かけている。無理をせず少しずつ出掛ける機会を増やしていきたいと思っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の身体、健康が以前に比べて重度化しており、外出は難しくなっている。	○	要望があれば家族の協力を得て実施したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話はしている。 (家族が禁止している場合はできない。)	○	今後も家族と相談しながら、要望に沿えるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は快くお受けしている。面会に来てくださる頻度は少ない。	○	気軽に寄れるように工夫したり、呼びかけをしたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険があると判断した場合に、家族と相談し、承諾をいただいたうえでのみ拘束している。できる限り拘束を外すよう各スタッフが工夫している。	○	繰り返し身体拘束につながる禁止項目の周知、把握をし、少しずつでも拘束のないケアが行えるようにしたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を考えてのことだと思うが、初めから出入口に鍵のついた建物になっている。	○	事業所全体での検討が必要である。鍵がないとして見守りだけで、利用者の安全が守れる自信はない。が全員で工夫し検討したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が声を掛け合い、さり気なく確認、把握している。日中は見守りしやすいホールに集まってくれている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、こちらが保管する物、しない物を分けている。所有物は随時増えるので、定期的に持ち物を確認し把握している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その都度、ヒヤリハット事例の報告から、今後の方針や対応を出している。	○	時間が経つと、スタッフの危険意識が薄れるので、常に危険に対しての意識を高めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	何かあれば連携医療機関に対応してもらっている。初期対応の知識はスタッフによって差が大きく訓練も行っていない。	○	定期的な訓練と知識取得を早く行う必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難の指導をしていただいている。地域の方の協力を得る働きかけはできていない。	○	実際、災害が発生した場合、具体的にどうすればよいか十分把握できていない。早期に地域の方に協力していただけるよう具体的に働きかけていき、避難方法などを身につけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態に応じて予想されるリスクについては、家族に説明し理解をいただいている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインチェックや様子を見て、早く発見し速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬を記憶するのは困難であるが、すぐに調べられるよう薬の説明を記録にファイルしてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分不足にならないように気をつけ体操もしているが、あまり効果はなく、結局下剤に頼っている。スキンシップの中で腹部のマッサージを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	激しく拒否されたら無理せず時間をおいたり、他の職員が交代したりして対応している。毎日、夕食後にケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事が気になる方には、個別にチェックしている。医師に報告し、助言をいただいている。	○	摂取量減少の原因を把握し、適切な対応を早くにしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医師、看護師の指示指導に従い、感染防止への対応に努めている。(職員の知識がバラバラである)	○	全スタッフが基礎知識を持つよう、勉強会の機会を持ちたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生には注意している。 食材は厨房で管理している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の造り、デイケアサービスとの兼ね合いもあり、自由に工夫できない。	○	せめて花を飾るくらいはしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作った物や花を飾って明るい雰囲気になるようにしている。利用者の直ぐ傍で、家事の参加を促しながら行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや居室で個々にリラックスしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、家族に慣れた空間にしてくださってよいと声を掛けている。	○	なかなか持ち込みはなく、同じ居室になっている。具体的にどのようにしていくか家族と相談しながら支援したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓が少ししか開かないため限界はあるが、雨が降らない時は全ての窓を開けている。換気だけでは臭いは取れないので芳香剤を使用している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限必要な場所には手すりがある。 洗面所は車椅子対応になっていない、安全に注意をはらっている。	○	居室内と洗面所は安全を考慮したものになるよう検討したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱がないように、一人ひとりの力を活かせるよう、速やかに対応を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設周辺は車が多く、くつろぐスペースは難しい。	○	環境上どうしようもないが、残っている洗濯干し場をもっと活用できるよう工夫したい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input checked="" type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

連携医療機関と併設していることもあり、医療との連携に力を入れています。(入所される方、御家族の方の多くも希望されています) 少しいの状態の変化にでも気が付けるよう日々取り組み、変化があれば日中、夜間問わず医師、看護師に状態を報告し指示をいただき対応しています。

平成12年、開設以来高齢化が進み認知症も進行し、できることができなくなったりするなか、入居者が混乱しないように普通の日常生活を送れることを最優先しています。また地域ボランティア、小・中学生の体験学習など受け入れ態勢を整備し気軽に訪問、交流が図れるように努めている。外部の方とのふれあう機会も多く入居者の表情も和らいでいるように思われる。